

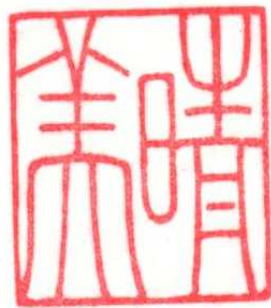
<第三弾 叱りの達人協会特別進呈レポート>

# ニーチェと芥川と猿沢の池

この世に事実はない  
あるのは、解釈だけだ

フリードリヒ・ニーチェ

叱りの達人協会



あなたは、部下からの報告で、こんな経験はないだろうか？

同一の事象の報告が、AさんとBさんで異なっている。つまり、話が食い違っている。

これは、どういうことなのか？どちらかが、嘘をついているのか？それとも、意図的にごまかしているのか？

## この世に事実はない あるのは、解釈だけだ

(フリードリヒ・ニーチェ)

人は、自分が困ったり傷ついたりするかもしれないと感じたら、無意識のうちに自分を痛みから守ろうとします。これは、自己防衛本能が行わせることです。自分が傷つくことを避ける、つまり痛みから避けようとしています。そこで、気づかないうちに、自分に都合よく解釈したり記憶したりするのです。これは、全て自分を守るために。

ですので、現場で一生懸命に仕事をしている A さんも B さんも、意図的に嘘をついたりごまかしたり正当化している訳ではないのです。本人にとっては、報告した通りにそう見えているのですから。このような人間の本质をニーチェは、このようにも表現しています。

---

## 人は、自分の欲望に応じて事実を決める

---

さて、日本でも、文壇の巨匠、芥川龍之介が、短編小説「藪の中」で、同じく人間の性(さが)を鋭くえぐっています。

芥川龍之介の「藪の中」は、映画界の巨匠 黒澤明監督「羅生門」の原作にもなっているので、映画ファンはそちらでご存じかもしれません。

「藪の中」は、登場人物が証言する内容が食い違い、真相は、それこそ藪(やぶ)の中。

そう、実は、事件の迷宮入りのことを、藪の中というのも、この作品からきているのです。

さて、実は、このネタは、河村晴美の経営者向け講演で高評価をいただくテッパンネタの1つです。

先日も、大阪のホテルの宴会場にて、一部上場企業のグループ会社経営者 100 名様へ講演させていただきました。

90 分講演が終わり、そのまま懇親会の立食パーティへ。その時に、社長に同行して参加されていた、ご子息の副社長さんに声をかけられました。その方は、学生時代は映画三昧だったとのことで、映画と文学がビジネスに文脈変換された着眼着想が、おおいにゆかいであったとのこと。そして、一旦、次の言葉を飲み込んで、「実は・・・」現在の社長から会社を引き継ぐに際して、色々考えることがあるとのこと。

そこで、河村は、こうお伝えしました。

---

# 手を打てば、鯉は餌と聞き、鳥は逃げ、女中は茶と聞く 猿沢の池

---

猿沢の池というのは、奈良市内の興福寺のそばにある、今も観光客でにぎわっている有名な池です。

その猿沢の池のほとりで、両手を合わせて「ポンポン」とたたくと、鯉は餌がもらえると思って泳いで集まり、鳥は鉄砲が打たれたと思って途端に飛び立ち、旅館の女中さんは、お客様がお茶を所望していると思ってお茶を用意する。つまり、ただ手をたたいただけなのに、立場によって受け止め方はそれぞれだということです。

ゆくゆくは、自分が会社のトップとして経営を引き継ぐことになる。その期待と様子見の周囲からの視線に、知らず知らずに縛られている錯覚に陥り、守りに入ってしまったこと。

本来のご自身は、業界の不文律の固定概念を取っ払って革新的に事業を展開していきたいと考えて、他社から今の会社に転職してきたのです。

周囲の雑音に惑わさされるのではなく、社会に役立つことを信念もって突き進む時、きっと見えている人は、副社長の志に共鳴し、感化され、共に切り拓いていくブレインになってくれると思います。と伝えました。

同じできごとでも、立場によって、解釈が異なります。

言葉の共通認識は、もちろん大切ですが、実は相手の思考のクセ、思考の背景を理解することも重要です。

一段上のメタ視点で、人間を見つめることが経営者として肝要ですね。

---

## ■河村晴美 NHK【クローズアップ現代】に放送された“叱りの達人®”



2018年『東久邇宮平和賞』 受賞

2016年『東久邇宮記念賞』 受賞

2015年『東久邇宮文化褒章』 受章

### 叱るとは使命感の愛

【問合せ先】叱りの達人協会（有限会社ハートプロ）2006年3月9日設立

[info@shikarinotatsujin.com](mailto:info@shikarinotatsujin.com) TEL:06-6462-0780

【検索キーワード】⇒ 叱りの達人 河村晴美

【叱りの達人協会 公式サイト】 <http://shikarinotatsujin.com/>

\* 本書の着眼着想の根底に流れる思潮に興味がある方は、引き続きメルマガを

お楽しみください